



## 南三陸町ネイチャーセンター準備室とは

2011年の東日本大震災により被災した南三陸町自然環境活用センター（通称：ネイチャーセンター）の再建と機能維持を目標とし、南三陸町の自然に関する調査・研究、教育・啓発活動を行っています。また、南三陸町の自然を対象とした研究を行う外部研究者の受け入れとその調査・研究活動の調整等も継続して行っています。

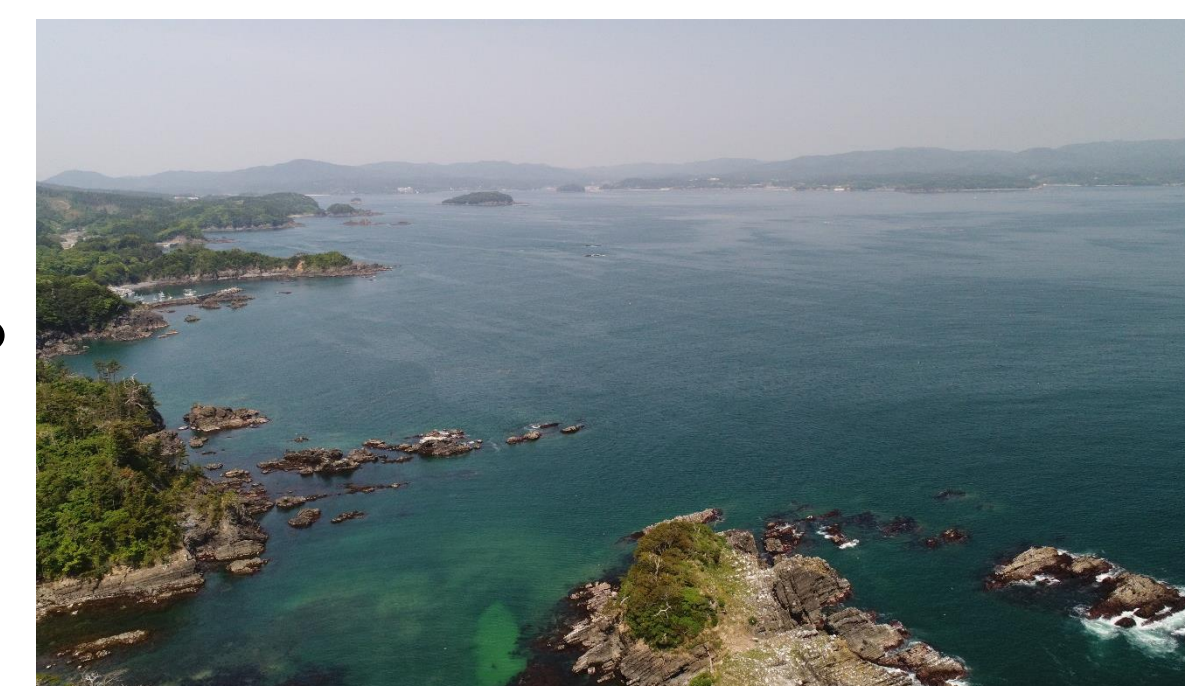
## 調査・研究

### 南三陸町の自然史に関する研究

南三陸町が面する志津川湾は、寒流と暖流両方の影響を受ける生物多様性の高い海です。準備室では、志津川湾にどのような海洋生物が見られるのか、1年を通して調査を行っています。また、東日本大震災により流出した標本の再収集・保存・管理も行っています。

2018年10月までに確認されている生物の種数

| 魚類   | 無脊椎動物 | 海産哺乳類・ウミガメ類 | 海藻・海草類 | 合計   |
|------|-------|-------------|--------|------|
| 129種 | 384種  | 4種          | 209種   | 726種 |



志津川湾



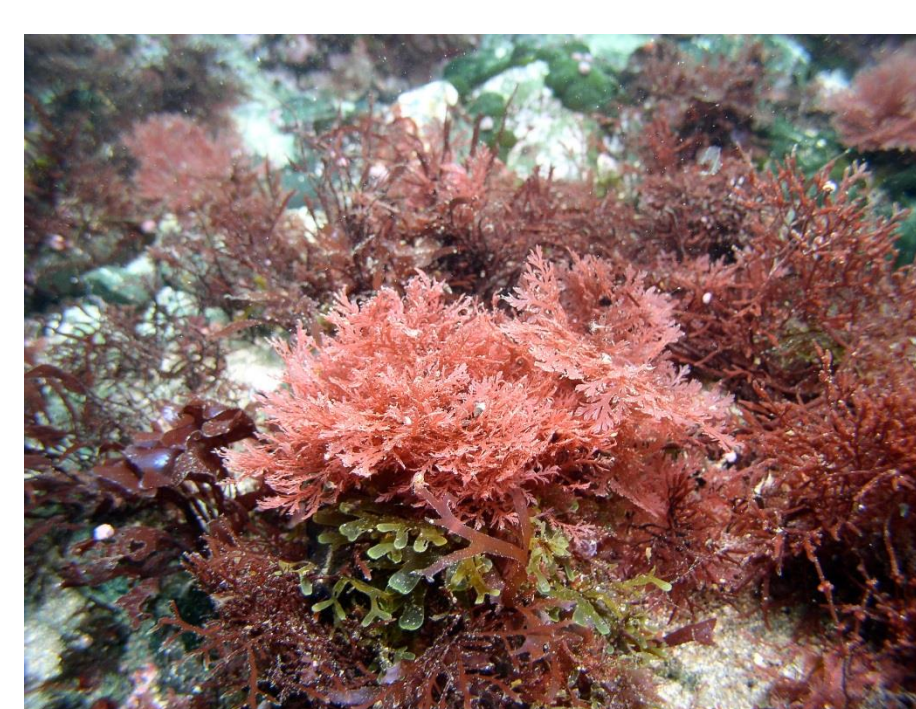
クチバシカジカ



ソメワケウミクワガタ



タシンスナクモヒトデ



ユカリ



アラメ



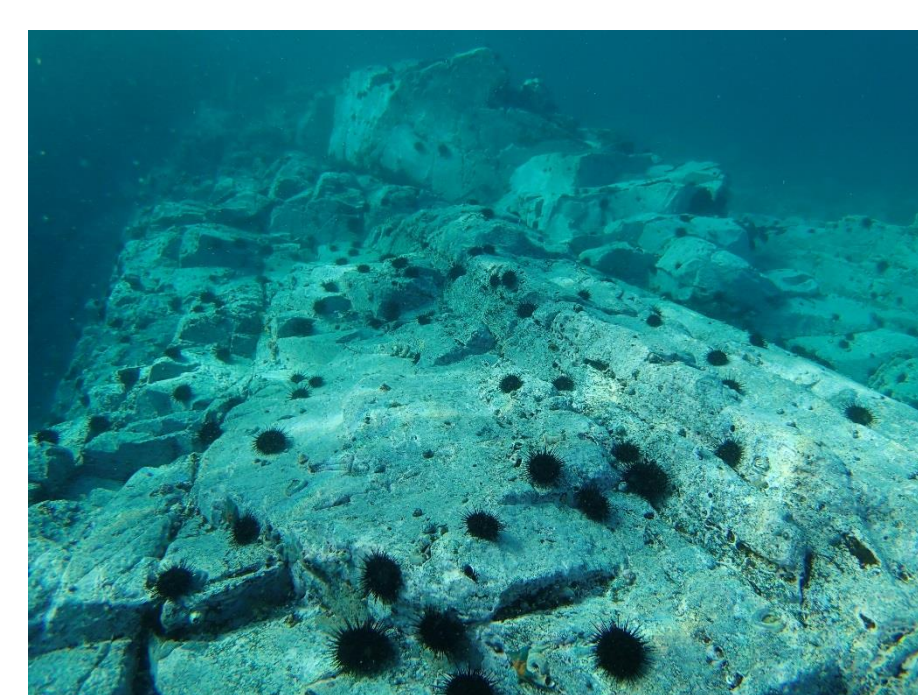
タチアマモ

### 海洋環境の保全・モニタリングに関する研究

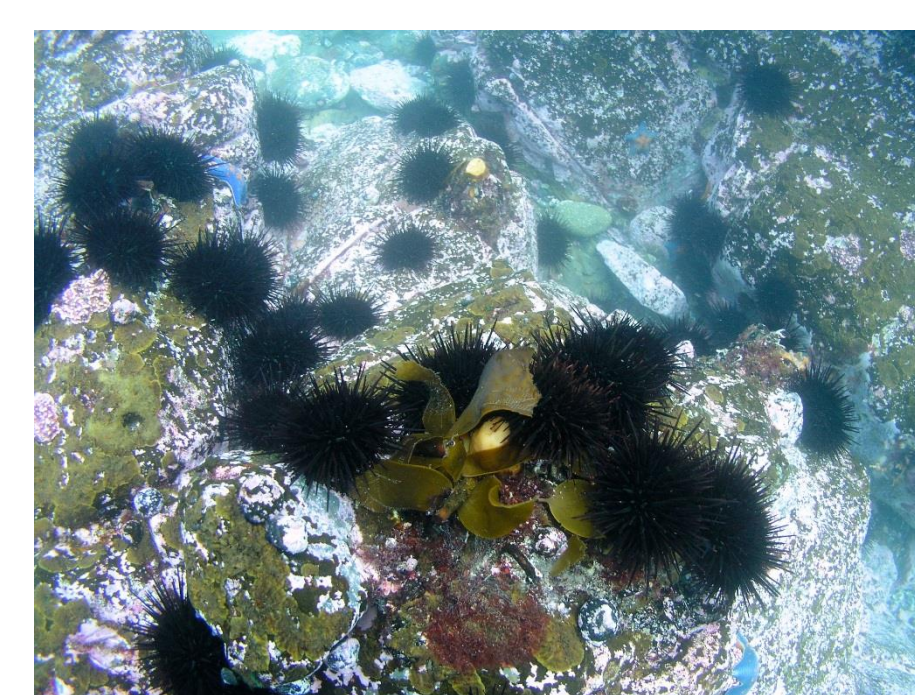
志津川湾を中心とした、海洋環境の保全・モニタリング事業に取り組んでいます。

#### ○磯焼け対策調査

志津川湾の一部では、海藻の森が姿を消し、その状態が続く「磯焼け現象」が見られます。そのため、地元の漁協や大学、外部研究機関と協力し、磯焼け対策に関する活動を行っています。



ウニによる磯焼け



海藻を捕食するウニ



磯焼け対策調査

#### ○環境省モニタリングサイト1000藻場調査

志津川湾では寒流と暖流が混ざり合うことから、冷たい海のアラメと暖かい海のアラメが共存する貴重な藻場が広がっています。そのため、環境省が毎年実施中のモニタリングサイト1000の調査対象地（藻場サイト）に指定されており、準備室も調査に参加しています。



調査地  
志津川湾内椿島周辺



モニタリングサイト1000  
藻場調査の様子

## 教育・啓発

### 宮城県志津川高等学校自然科学部との生物調査

2017年春より宮城県志津川高等学校自然科学部が実施している南三陸町内の生物調査に協力しています。町内を流れる八幡川の下流域から河口域の干潟までを調査地としています。調査の結果、希少な生物も多数見つかり、多様性豊かな貴重な自然環境であることが確認されました。今後も生徒たちと調査を継続していきます。



干潟調査の様子



河川調査の様子



アサリ



ヤマメ



カネココブシガニ



コオニヤンマ

### 小中学校への出前授業

近隣の小中学校を対象に、地元の自然環境や海洋資源・水産物に関する出前授業を行っています。また、南三陸町の海をフィールドとした臨海実習等への協力も行っています。



小学校での出前授業

### 環境教育・普及啓発活動

2018年10月に南三陸町の海「志津川湾」はラムサール条約湿地に登録されました。世界に認められた豊かな自然を未来の世代にいつまでも伝えていけるように、様々な環境教育・普及啓発活動を行っています。



幼稚園児との磯観察会



小学生の定置網揚体験